

文献紹介

戸祭由美夫 著

『絵図にみる幕末の北辺防備－五稜郭と城郭・陣屋・台場』

古今書院 2018年6月 213頁 3,800円＋税

本書は、北海道東北各地に所蔵されている近世蝦夷地の陣屋・囲郭などの施設を描いた絵図群をもとに、蝦夷地の防備施設の実態とその近代以降の跡地の変容について明らかにしたものである。

古今書院の月刊誌である『地理』に「五稜郭に魅せられて－絵図にみる幕末の北辺防備」と題して連載した記事がもとになっており、その連載タイトルにあるように、著者がこのテーマに関心をもつきっかけは「五稜郭」だったという。その後、単独でフィールド調査をしながらも、その興味をかたちにすべく、科学研究費補助金で地理学関係の研究者達と共同研究を行い、絵図の収集、現代地図との比較、現地調査による当時の諸施設の比定といった作業を行った。

本書の内容は以下の通りである。

第1部 箱館奉行所－五稜郭とその外郭防備施設

第1章 幕末の箱館－五稜郭誕生前史

第2章 五稜郭の誕生

第3章 亀田役所の二重囲郭

第4章 亀田役所の特徴

第5章 亀田役所跡地の現代にいたる変容(上)

第6章 亀田役所跡地の現代にいたる変容(中)

第7章 亀田役所跡地の現代にいたる変容(下)

第2部 蝦夷地沿岸の防備施設－城郭・陣屋・台場など

第8章 第一次幕領期における蝦夷地防備施設

第9章 第二次幕領期における蝦夷地警備体制の概要

第10章 第二次幕領期における函館平野の「陣屋」

第11章 第二次幕領期における噴火湾岸の「陣屋」と関連防備施設

第12章 第二次幕領期における太平洋岸の仙台藩の「陣屋」

第13章 第二次幕領期における日本海側の「陣

屋」

第14章 第二次幕領期における松前城の建設結び

第1部は、箱館に置かれた江戸幕府の出先機関である箱館奉行所について、幕末に亀田村に建設された五稜郭とその周辺を含めて、当時の絵図による復元とその後の土地利用の変化を明らかにしたものである。

第2部は、第一次幕領期、第二次幕領期の2回にわたって行われた幕末蝦夷地沿岸部における東北6藩と松前藩の警備の際に作成された、その陣屋や番所、台場などの防備施設に関する絵図を紹介し、その全容解明に迫ったものである。

全体を通して、本書の大きな特徴は、何よりもその図版の多さであろう。当時の絵図だけでなく、地形図・地籍図や空中写真を利用し、五稜郭や亀田役所、蝦夷地各地の東北諸藩の陣屋を復元し、その現代までの変容を検討する。読者は、これらの図版を見ることで、それぞれの位置や囲郭の形態を確認し、今はもう残っていない、かつて施設のあった地点やその周辺の状況について把握できるだろう。長年にわたって調査研究をすすめる、これらの図版の収集に努めた著者には敬意を表したい。

第1部にあるように、函館の五稜郭は、日本の城郭史において、そのヨーロッパ式の囲郭構造が独特のため、多くの研究者や城マニアが注目してきた。著者は、自らのヨーロッパの囲郭都市の研究経験を踏まえて、五稜郭と主要なヨーロッパの囲郭都市との比較を行い、従来言われていたパリ市南郊にあるフォートよりもアントウェルペンなどに代表されるシタデルのほうが近似していることを指摘した(第4章)。また、五稜郭そのものだけでなく、箱館奉行所(亀田役所)の空間構造との関連で、内郭と外郭の二重の囲郭をもち、五稜郭はその内郭部分であることも指摘している(第3章)。

第2部で取り上げられている幕末蝦夷地に立地した多くの陣屋は、蝦夷地沿岸の各地にある。従来は、東北の各藩における自治体史などの個別の

事例で紹介されることが多く、全体を見渡したうえで、これほど細かく調査した研究はなかった。著者を代表とする共同研究では、これらの陣屋の立地や形態、それぞれの情報を詳細に整理し、データベース化している。またGISや3次元ソフトでの復元も行っている。本書の前提となる著者代表による科学研究費の成果報告¹⁾には、それらの分析結果が掲載されており、今後の東北諸藩の蝦夷地警備・支配に関する研究の基本データとなるに違いない。

江戸幕府の蝦夷地経営の最前線である箱館奉行所（亀田役所）が五稜郭に存在したのは最幕末のわずか4年である。明治元（1868）年、戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争の舞台となった。明治4（1871）年に建物の大半が壊され、五稜郭公園となった。大正11（1922）年には国の史蹟に指定され、戦後の文化財保護法のもと、国の特別史跡になった。平成12（2000）年には、行政による「箱館奉行所復元構想」が策定され、関係者によって様々な文献史料や絵図面が検討され、当時の技術を再現し、平成22（2010）年には「復元・箱館奉

行所」が完成した²⁾。

五稜郭タワーから眺めると、ヨーロッパ風の星形の囲郭の中央に、日本風の奉行所の建物が同時に目に飛び込んでくる。これこそが、函館という地域の幕末、そして日本の歴史上の転換点を物語る風景なのだ、と現代の人々は思うだろう。本書には、この風景に至るまでの土地の歴史が記述されており、函館や北海道各地を訪れる際には、ぜひ読んで欲しい書籍である。

（米家志乃布）

〔注〕

- 1) 戸祭由美夫『北海道・東北各地所蔵の幕末蝦夷地陣屋・囲郭に関する絵地図の調査・研究（平成17～20年度科学研究費補助金報告書）』、2009。戸祭由美夫『文化遺産としての幕末蝦夷地陣屋・囲郭の景観復元—GIS・3次元ソフトの活用（平成22～25年度科学研究費補助金報告書）』、2014。
- 2) 箱館奉行所公式ウェブサイト hakodate-bugyosho.jp（閲覧日2021年7月4日）